

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 なごみ)

事業所番号	0692300056		
法人名	社会医療法人みゆき会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームこころ		
所在地	山形県西村山郡河北町大字溝延字本丸8-1		
自己評価作成日	令和2年11月17日	開設年月日	平成22年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

河北町溝延地区の住宅街に設立しており、毎日通学する子供たちが手を振り、地区住民の行き来する姿もフロアの窓から見る事が出来ます。私達は入居者様の笑顔を大切に、一人ひとりの出来る事をしっかりと把握してケアをさせて頂いています。入居者様とご家族様の絆を大切に、安心して生活して頂けるグループホームを目指しています。また、隣接する介護老人保健施設の看護師と24時間オンコールで繋がっている為医療面での連携もとれ安心してご利用いただけます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和2年 12月 22日	評価結果決定日	令和2年 1月 7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に母体法人が設置する老人保健施設、認知症デイ、デイケア、足湯などがあり、研修や災害対応、医療面などでの緊密な連携が図られ、利用者や家族の安心に繋がっている。開設以来10年となり、「こころ」に寄り添うことを理念に掲げ、住み慣れた地域で穏やかに暮らし続けられるよう支援している。管理者及び職員は、理念を実践に繋げるため、より具体化したユニット目標、更に個人目標を設定し、評価を行ないながら日々のケアに活かしている。コロナ禍で外出制限、面会制限の重圧の中にあっても、感染予防対策を徹底しながら、車窓からの景色を楽しむドライブや、自家菜園の手入れや収穫、プランターの花植えなど外気に触れる機会を創出し、さらにオンライン面会など多様な工夫をしながら利用者の安全と笑顔を引き出す支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に理念を掲示している。毎日業務開始前に唱和する事で入居者様に寄り添ったケアを意識できている。毎年部門目標、ユニット目標を挙げ実践と評価、改善を継続している。	「こころ」をキーワードにした理念を玄関、事務所に掲示し、常に意識できるようにしている。理念を実践に繋げるため、毎年ユニット毎の目標を定め、今年には笑顔をテーマにし、コロナ禍の中でも行事を減らすことなく、笑顔を引き出す支援をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学童クラブとの交流をはじめ、地域の花植え活動や文化祭に参加している。昨年度地区の文化祭の輪投げ大会に参加し、地域の方と交流を持ちながら楽しい時間を過ごす事が出来た。	例年、学童クラブとの交流や地区文化祭への出展、ボランティア受け入れなど積極的に交流している。今年は中止になった事業が多い中、地域の花植え活動に参加し、花の苗をプランターに植え、郵便局に持参したり、事業所に配置したりしながら交流することができた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域への外出や近隣施設の夏祭り、文化祭へ参加し地域住民との交流の場を設けている。認知症の方への理解や支援のアドバイスが出来るよう、職員も認知症ケアの勉強会に年2回以上開催、参加をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場や包括センター職員、区長や民生委員、入居者様、家族の方に会議に出席して頂き、事業所の活動や事故報告などを行っている。2か月に1回開催しサービスの向上に活かしている。	例年、役場職員・包括センター職員、地域住民代表、利用者と家族、有識者の出席の下、2ヶ月に1回開催している。今年は、利用者・家族を抜いて例年通り開催し(1回は未実施)コロナ禍での事業所の実情を説明し、意見交換ができた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の主催する調整会議に管理者が出席するようにしている。運営推進会議には町の職員が出席している為協力体制が取れていると考える。	介護保険サービス調整会議は本年1回開催され、役場の説明や町内介護事業所との意見交換が行われ、また運営推進会議に役場の職員が出席し協力体制が築かれている。今年は、コロナ予防対策に関しマスクなどの資材確認の連絡も頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>年2回併設の施設で開催する勉強会に参加し、正しく理解し知識を身につけている。3ヶ月に1回近隣施設と合同の「身体的拘束等の適正化対策検討委員会」に管理者が参加し内容について検討している。玄関は20時～4時以外は開錠し、ユニット間の扉も開放している。</p>	<p>手引き、マニュアル、指針を作成し、職員に徹底している。研修会は併設事業所と合同で実施し、事例研究として“グレークイズ”を行い、参加者があいまい(グレー)でなく正確な知識を身につけている。「身体的拘束等の適正化対策検討委員会」も併設の老人保健施設と一緒に3ヶ月に1回開催し出席者が、内容を職員にフィードバックしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>併設の施設で開催する勉強会に職員全員が参加している。ホーム内でも認知症ケアについての勉強会を開催し、不適切な言動がないよう努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>開設してから制度を利用した入居者様はいないが、勉強会に参加し学ぶ機会を設けている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>問い合わせを頂いた際には事業所のパンフレットや料金表を配布し、希望があれば見学をした上で申し込みをしてもらっている。契約の際は管理者が重要事項や契約等について説明を行い、不安や疑問があればいつでも連絡して欲しい旨をお伝えしている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様の日常的な生活の様子を毎月お便りやお手紙を家族宛に郵送している。玄関には意見箱を設置し、カンファレンス等で来所された時は積極的にコミュニケーションを取り意見や要望を聞く様に心がけている。</p>	<p>目標達成計画に挙げ、利用者・家族の意見や要望が反映できるよう書式の改善を行った。面会時には利用者が出来ること・職員がサポートすることを時系列に記した介護サービス日課計画を家族に説明し意見を頂いている。また毎月お便りを送り意見を頂く機会にしている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ユニット会議を開催し意見や提案が出た場合は不定期にフロア会議をしている。個人面談も年2回行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で資格や等級に応じた業務内容や給与水準を設定している。年2回人事考課シートを活用し上司と面談をしている。各自意欲的に働ける職場を目指している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設や事業所独自の研修会(勉強会)で学ぶ機会を多く設けている。外部への研修は個々に合わせて促し、受講後は報告書を提出してもらっている。報告書には上司のコメントを記入している。	事業所独自の勉強会、併設施設との合同研修会など年間研修計画により実施している。外部研修には適任者を派遣し、参加者は内容に併せ今後どう活かすかを記載した復命書を作成している。新人にはOJTを実施している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入しており、ブロック会はもちろん協議会主催の研修にも参加し同業者との情報交換や交流をする機会がある。	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加盟し、県レベル、地区レベルの研修や会議を通して交流しネットワークを作っている。新たな情報や書式など参考にできるものは取り入れながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーやご家族より事前に情報をもっている。その後、実態調査に出向き本人様の不安や要望を把握するように心がけている。得た情報は入居前に全職員と共有している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや実態調査時にご家族様の不安や要望を直接確認し、入居時に安心して利用して頂けるように意識し努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際にご家族様の思いを確認し、本人様の思いなどは担当ケアマネージャーにも確認をしている。入居後2週間でプラン、支援内容を見直しを必要な事を見極めている。また、ご家族には可能な限り協力を得られるように提案している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を目指し、出来る事は積極的にしてもらえよう在宅生活を念頭に置いた家事の継続を心がけている。家事だけではなく知識や技術、経験などを話すことでいい関係づくりが構築されていると考える。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1か月の生活の様子を記したお手紙とお便りをご家族あてに郵送している。受診の付き添いは基本ご家族にお願いしており、入居後も本人様との絆が途絶えないよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	自粛生活で以前のように外出する機会が減少しているが、ドライブや散歩で馴染みの景色や街並みを楽しんで頂いている。対策・確認をして馴染みの床屋等に外出をしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の間関係を把握し、職員が介入する事でトラブルにならないよう配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所が決まった際は事前に担当者と打ち合わせをし入居者様、ご家族様が困らない様になっている。入院された場合も病院に連絡をとり、経過の確認をしている。再入居が可能な場合は調整も行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から得た入居者様の思いや意向はカルテに残し、必要な場合は御家族にも相談や確認を行っている。日課計画書にも本人様の意向を記入し、時系列で支援内容を記している。	入居時、フェイスシートに生活歴や得意なこと、希望や意向を把握し記載している。利用開始後は、日々の会話やしぐさから、本人の出来ることや、支援があればできることを時系列的に記載し、目標達成計画に挙げたニーズの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を本人様や御家族様だけではなく、担当ケアマネージャーからも情報を得ている。入居前に職員全員で情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に得た情報をもとに、日課計画表を作成している。本人様の現状を把握し、変化についても計画書を見直す事で行えている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居後2週間、その後は定期的にモニタリングやカンファレンスを行い実践状況を把握している。カンファレンスでは職員や御家族の意見・情報交換を行い計画書を見直している。	入所2週間後、その後は3～6ヶ月毎にモニタリングとカンファレンスを行い、計画の見直しをしている。見直しの際は家族に詳細を説明し意向を聞き、職員間で意見交換しアイデアを出し合いながら現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々で記録を残し情報を共有している。目標をカルテに記入しする事で、意識した記録も行え計画書の見直しにも活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度地域の公共施設を利用した文化祭に参加し、作品の出品や輪投げ大会を行なった。初詣や町の祭りにも出向き楽しんでた。町助成のオムツ券を活用している方もいる。コロナ禍の中でも、事業所内で地域の花植え活動を継続している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通院していたかかりつけ医に受診している。付き添いは救急以外は御家族にお願いしている。ご家族様には事業所が準備した情報シートを渡している。	かかりつけ医は本人・家族の希望を大切にしている。受診付き添いは家族が行っており、事業所が記載した情報シートを持参し、かかりつけ医が結果を記載して返してくれる場合もあり、家族、事業所、医療機関が情報を共有している。緊急の場合は併設の老人保健施設のナースに連絡し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する介護老人保健施設看護師と24時間オンコールで繋がっており、体調や外傷等の変化は随時報告をしている。受診の必要性の判断は看護師に依頼している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は事業所より情報提供書を作成し、身体・心身状態の申し送りを行っている。入院先とは治療期間や退院時期について、連携室職員と電話や訪問で情報交換を行っている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した際の指針を説明し、事業所としての対応可能な範囲を理解頂いた上で署名・捺印を頂いている。ターミナルケアや緩和ケアについてホーム内の勉強会を毎年実施している。</p>	<p>入所時に重度化した場合の指針を基に、できること・出来ないことを説明し理解を頂いている。状況が変化した場合、家族・関係者で繰り返し話し合いながら対応している。併設の老人保健施設で看取りについて準備中であり、事業所では勉強会を年1回実施している。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ホーム内での勉強会はもちろん、看護課が企画する勉強会に定期的に参加し実践力を身につけるようにしている。緊急時のマニュアルを作成し、AEDも設置している。</p>		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回隣接する施設と合同で消火訓練や避難訓練を実施している。職員の少ない夜間想定での避難訓練は重要と考え力を入れている。</p>	<p>火災想定での避難訓練は併設の施設と合同で行われている。今年7月、近隣地区が河川氾濫の災害にみまわれ、被災地区の住民は地区の公共施設に避難した。ハザードマップでは事業所設置地区は氾濫区域外となっている。地域との協力体制については、避難訓練時、声掛けしているが日中の訓練であるため参加協力を得られていない。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの人格や誇りを尊重しながら個々の言動や行動に対して適切な対応を心掛けている。認知症ケアについて学ぶ機会を設け、言葉づかいにも気をつけている。</p>	<p>認知症ケアの勉強会を通して言葉かけや対応について周知している。年2回CS(顧客満足度)委員会が職員対象のアンケートを行い自己啓発に活かしている。不適切な対応が見られる場合は管理者がその都度注意したり、年2回職員と面談をして一人ひとり個別に確認をして徹底している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の言葉がけから自己決定しやすい環境づくりに努めている。思いを伝えられない方には表情等から汲み取れるよう心掛けている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にしながら希望に添った時間を提供出来るよう心掛けている。集団生活支援や日課を優先しないように気をつけている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った提案をしながら、本人様に衣類を選んで頂いている。床屋はほぼ全員出張サービスを利用しているが、中にはご家族付添いで美容室へ行かれる方もいる。本人様の意思の確認をしマニキュアを楽しんでいる方もいる。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段はご飯、汁物以外は隣接する施設の配食サービスを利用し、個々の力を活かして盛り付けや片付けをして頂いている。週1回程度、季節の食材や自家菜園で取れた野菜等を使った食事作りや町内の店からの出前を楽しんでいる。	コロナ禍のため、利用者が楽しみにしている外食はできないが、出前、弁当、テイクアウトなどを取り入れたり、自家菜園で収穫した里芋を使っの芋煮会やユニット合同のぼた餅など、作って食べる楽しみの機会を大切にしている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を確認し記録している。食事形態は一人ひとりに合わせて刻み食等を提供する事もあり、食事や水分の摂取量が少ない方に補助食品や好みの飲料水を準備し提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要な場合は対応している。夕食後は義歯を預かり洗浄剤をつかって管理している。歯科医師、衛生士の指導を受けて口腔内の清潔の保持を心掛けている。マウスウィッシュや歯間ブラシを使っている方もいる。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し日々の変化に気づく事が出来ている。昼夜全員トイレを使って排泄が行なえている。一人ひとりに合わせた支援が出来ている。	詳細に作成された排泄チェック表を利用し一人ひとりの排泄パターンを把握し適時の声掛けや誘導をしている。日中おむつをしている利用者はなく、全員が便座に腰掛けて排泄が行なえ、排泄の自立に向けた支援が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排便状況を確認し、必要に応じて看護師やご本人様の主治医への相談を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は希望がない為実施していないが、入浴チェック表を活用し強制にならない様に個々に応じた入浴を心掛けている。季節に応じた菖蒲湯やゆず湯も楽しんで頂いている。	入浴は基本的に週2回であるが、嫌がる利用者には無理強いせず、声かけなどを工夫しながら清潔を保持している。浴槽には温泉がひかれ個浴である。敷地内に足湯も設置され、地域の住民に開放されている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体調や疲労に応じた声掛けを行っている。自宅で使用していた布団を使って頂くなど安心する環境を心掛け、フロアにソファを設置し休息できるようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに処方箋を挟み、全職員が情報を共有出来る様にしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの活動能力、会話などを通して役割を持った生活が出来るよう支援している。生活の中の楽しみや嗜好で気分転換を図る様にしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の制限を余儀なくされているが、散歩やドライブ、行事などを充実させる工夫をしている。ヘルパーを利用して自宅へ外出している方もいる。	コロナ禍による外出制限の中にあっても、利用者が車窓から四季の移ろいを感じられるようドライブを計画し楽しんでいる。また近隣を散歩したり、自家菜園でのきゅうりやじゃが芋、里芋などの野菜栽培、プランターの花植えなど多様な外気に触れる機会を設けている。雪かきを楽しむ利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	一人ひとりの希望や力に応じ、家族の承諾を得た上でお金を所持して頂いている。			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	一人ひとりに合わせて電話や手紙、はがき等のやり取りの支援をしている。また、オンライン面会も導入している。			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ユニット間の扉は開放し自由に行き来出来る様になっている。家庭的で落ち着いたユニット作りを心掛け、季節の装飾や写真を掲示する等の工夫をしている。温度や湿度に配慮し、換気も行っている。	コロナ感染予防対策として、まず換気の回数を増やし、ビニールカーテンで仕切りを設けている。湿度・温度の管理はこまめに行い、ソーシャルデスタンスを実行している。コロナ禍にあっても、季節の花を活けたり、作品や思い出の写真を掲示するなど、潤いのある生活が維持できるよう工夫している。		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	フロアにソファやテレビを設置し、入居者様同士はもちろん職員も一緒に過ごす交流の場所として活用している。独りになりたい方への配慮も行っている。			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居時に愛着のある物を持ちこんで頂いている。入居生活を送っていく中で、本人様が希望する物は御家族と相談の上準備していただいている。居室内にもご家族の写真やお手紙を貼り居心地のよい居室づくりを心掛けている。	ベッドは設置されているが、その他は利用者が自分の使い慣れた調度品や写真などを持ち込み居心地よく過ごせるよう配慮している。携帯電話を持参し家族と連絡を取り合っている人もいる。		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	玄関以外はバリアフリーになっている。居室・トイレ・浴室には目印になる掲示をし、家具なども安全に配慮した設置をしている。			